

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

教科書は宝物

福島市立平野中学校

3年 紺野 葵祐斗

僕達は、小学1年生から中学3年生までの9年間ずっと教科書を使っている。学年が変わるごとに教科書が配布されているが、決してこれは当たり前のことではないのだ。教科書が無料で配布されているのは、「税金」というものを人間一人ひとりが納めているからである。

教科書で遊んだりしている人を人生の中で一人は見たことがあるのではないだろうか。中学生になってふとそのことに気が付いたのだ。自分も教科書に落書きをしていたことがあった。その時は、教科書は無料だからいいやと思っていて雑な扱い方をした時期があった。雑な扱い方をして教科書が使えなくなったり、教科書をなくしたりしていた人がいた。その人は、先生に「教科書、新しいのをください。」と言っていたが、先生は、「あれは税金で一人一冊しか配られないのよ。」と言っていた。教科書は本屋などで売られてはいるが、一冊1,000円ほどする。その時、改めて、税金で教科書をもらせることはありがたいことなんだなと思った。

アフリカ大陸の人々は、税金を払っているのに多くの子供達は学校に通うことができなかつたり、教科書をもらっていなかつたりもする。普段、当たり前のように通っている学校、当たり前のように使っている教科書、どれも他の国にとってみれば、決して当たり前のことではないのだ。「税金」というものがあり、その中で学校に通えている私達、教科書を中学3年まで毎年のようにもらえる私達はとても幸せなものなのだ。幸せということに気が付かなければ、いつまでも税金の大切さや教科書の大切さには、気が付くことができないであろう。

「教科書」というのは、決して無料ではない。私たちのために、年々積み重ねられてきた、多額の税金の支えによるものなのだ。その税金を利用する私たちも、しっかりと心にとめておくべきだと感じている。

私たち中学生はさまざまな場面で、このような税金の支えによる無料に遭遇している。自分達が使っている教科書も残り半年で無料ではなくなってしまう。それは、高校が義務教育ではないからだ。教科書、一冊、一冊もらうのにお金がかかってしまう。だからこそ、残りの半年間、小学1年生から税金で配られていた教科書を大切に扱いたい。中学3年で教科書のありがたさ、税金のありがたさを知るのは遅いかもしれない。だが、僕にとって教科書は宝物だ。人生の中でもたった9年間使った宝物、いや9年間も使った宝物である。教科書に「ありがとう。」税金に「ありがとう。」と伝えたい。今だからこそ味わえる税金のありがたさを実感し、これからも正しく、大切に使えるようにしたい。